目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第56号　2012年9月　　発行人：大野　利幸　編集長：地田　博昌　事務局長：小杉　哲

第13回　定時総会開催

7月22日（日）午後4時、目黒雅叙園において、来賓3名、会員及び家族77名、応援部OB2名、合計82名の出席のもと、目黒稲門会第13回定時総会が開催された。

石川幹事の司会で開会が告げられ、ご出席の来賓3名を紹介した。次いで、大野会長より開会挨拶があった。（詳細別掲）

これより議事に入り、議長に横山相談役を選出した。議長は先ず、事務局に出席者数の報告を指示した。司会より、当日の出席者数は、会員168名中委任状を含め136名であることが報告され、議事に入った。

(1) 23年度事業報告、(2) 23年度決算報告、(3) 監査報告が、吉田幹事長、梶会計幹事、市瀬監査役よりそれぞれ報告され、いずれも異議なく了承された。

(4) 24年度事業計画案、(5) 24年度予算案について、吉田幹事長より説明があり、いずれも異議なく了承された。(6) 24年度役員構成について、吉田幹事長より資料を示して説明があり、異議なく了承された。

ここで第2期目に入る大野会長より、早稲田大学、目黒稲門会の発展のために頑張りたいとの挨拶があった。横山議長は改めて全ての議案に賛同の拍手を求め、議事は終了した。

次に、来賓を代表し、本多聖治早稲田大学常任理事より挨拶があった。始めにその日、首相が大隈講堂で学生に熱弁をふるったことがニュースで放映されたことに触れ、今年は創立130周年で様々な活動をしていると報告。20年後の創立150周年に向け、「ビジョン150」として大学のあり方について10月の創立記念日に発表する。目黒稲門会のボランティア部会に関連して、早大ボランティアセンターでは学生2000人以上を気仙沼、陸前高田などに派遣していると紹介。また、女子学生が35%を占め、女子学生数では日本一など、母校の近況を紹介した。

休憩をはさんで、5時前、再び石川幹事の司会で、第2部懇親会に移った。

始めに来賓の中川勝之早稲田大学地域コーディネーターが挨拶。ロンドン五輪およびパラリンピックに母校より多数の出場者がいると紹介。ボランティアでは、被災地のがれき処理に加えてサークルや学習支援なども行っている。被災地の人々と対話を行う中で、防災、安全についての提案をしている。「ビジョン150」の中でも、健康医療、超高齢社会などのテーマの研究、新たな分野の研究にも挑戦することにしている。ご支援宜しくとの挨拶があった。

ここで、梶会計幹事の発声で乾杯、歓談に入った。

今回は、特別アトラクションとして、目黒稲門会宮崎慈子会員を含む3名の応援部OBによる演技が行われた。男性のエールもさわやかに、女性2名のチアリーディングにより、「早稲田の栄光」「コンバットマーチ」など、全員1つの輪になって応援歌メドレーを歌いあげた。「学生時代を思い出した。」「久々に歌うことができた。」などの声が聞かれた。

歓談の進む中、各部会長が紹介され、部会活動への参加を呼び掛けた。続いて「若木会」の新部会長中西元樹氏が決意を披露。司会より、この場でもボランティア部会の募金が行われている事の紹介があった。

恒例の初参加者紹介では、朝比奈義雄、金井豊男、高橋俊行、林重雄の4氏が自己紹介した。

稲門祭記念品販売は歓談中も行われ、来賓の小太

刀販売本部副本部長の助力を得て、安藤孝実行委員他の皆様が尽力された。

宴たけなわにして校歌斉唱となり、再び応援部のリードで朗々と都の西北を歌いあげた。

中締めの挨拶、発声は大杉邦雄副会長で、総会を企画運営した役員を紹介し労をねぎらった。三三七拍子も心地よく、第13回定時総会はお開きとなった。

（田島　記）

会長挨拶

目黒稲門会会長　大野利幸

目黒稲門会は今日第13回目の総会を迎えた。発足は平成11年で、23区でも終わりから２～３番目、当初は何をして良いか判らない状態であった。先輩の稲門会から教えて頂いたり、校友会からもアドバイスを頂き、初代眞仁田会長、２代加藤会長、３代八幡会長と尽力された。大先輩も役員としてご尽力頂き、現在では23区の中でも遜色のない活動をしている。

私は、３代会長の急逝を受けて平成22年７月指名され、会長を引き受けることになった。各役員の方と考えながらやっている。会長に就いてすぐ、昨年の大震災があり、皆さまから支援の寄付を募り、また、ボランティア部会を立ち上げた。我々はだんだん老齢化していくので、若年層を招き入れ、若木会を作った。これらを含めて各部会の活発な活動で、目黒稲門会は評価されている。

忙しい中お越し頂いた、本多常任理事、中川地域コーディネーター、小太刀副本部長に感謝する。一層の発展とご家族を含めた楽しい会にしていきたい。今後も宜しくお願いしたい。

総会出席者（敬称略、五十音順）

（来賓）

本多聖治・早稲田大学常任理事
中川勝之・早稲田大学地域コーディネーター
小太刀昌雄・稲門祭記念品販売本部副本部長

（応援部OB）

柳澤隆弘、石崎絢子

（会員）

朝比奈義雄、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、
安藤　孝、安藤虎雄、石川智子、石川純子（母上）、
市瀬一江、市瀬達夫、伊藤　悠、稲垣博信、
猪名川一雄、井村正陽、岩佐幸子、岩佐好恭、
岩崎春雄、岩瀬　暁、鵜野洋治、海口昭治、
大内秀明、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、
大野利幸、大野幸子（夫人）、尾崎　充、小野　満、
影山信輝、笠谷興一朗、梶　恵作、柏木　博、
加藤榮護、金井豊男、川井信義、河村晋彦、
木村昭一、小池早苗、郡山弘文、郡山富子（夫人）、
小杉　哲、後藤克彦、佐々木芳子、嶋田勝彦、
島田久家、高橋俊行、田島順一郎、田畑　繁、
地田博昌、千野逸平、手塚仁雄、外岡　明、
中上美代子、長島清志、永田耕治、中西千可子、
中西元樹、成田隆一、服部尚彦、林　重雄、
林田雅敏、福井正康、堀井良造、牧野武夫、
松田哲也、松戸　猛、眞仁田　勉、水野弘文、
宮崎慈子、村上　柾、村上　満、村山　弘、保井　正、
横山　大、吉田成孝、吉田博行、吉本政治、
米田文彦

総会初参加者：左から林、朝比奈、高橋、金井の各氏

目黒稲門会 第13期 決算報告書

（平成２３年４月１日～平成２４年３月３１日）

<収入>　　単位：円

科目	金額	備考
前期繰越金	615,023	
年会費	800,250	23年度5000×154名、2500×5名（途中入会） 過年度5000×1名、次年度分5000×2名、その他
総会収入	615,000	H23-7-17目黒雅叙園、会員72・同伴3・来賓1名
新年会収入	780,000	H24-1-15目黒雅叙園、会員74・同伴6・来賓1名
組織強化費	185,000	早大校友会
雑収入	145	受取利息
合計	2,995,418	

<支出>

科目	金額	備考
総会費	489,605	会場費他
新年会費	537,278	会場費他
会報費	322,350	会報製作費、印刷費
部会運営費	70,000	囲碁、麻雀、カラオケ、ゴルフ、ウォーキング、よん月会、美術歴史鑑賞、グルメ、旅行、俳句、若木会、ボランティア、会報編集、事務局
会議費	92,400	役員会会報編集会議等の会議室使用料
交際費	78,235	東京23区支部幹事会等
通信費	86,700	会報発送費他
事務用品費	21,006	業務用角封筒、事務消耗品、会議資料等コピー代
広告宣伝費	46,528	niftyHP契約使用料、早稲田祭広告掲載料
雑費	49,515	会費等振込手数料、名簿印刷代
次期繰越金	1,201,801	＊脚注参照
合計	2,995,418	

＊注：次期繰越金内訳
- ・三菱東京UFJ銀行　学芸大駅前支店　1,197,095円
- ・三菱東京UFJ銀行　中目黒支店　3,345円
- ・ゆうちょ銀行　目黒店　1,361円
- 合計　1,201,801円

監査報告書

私たち監査役は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第13期会計年度の会計報告を監査致しました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成２４年５月７日

目黒稲門会　監査役　市瀬達夫

監査役　服部尚彦

目黒稲門会 第14期予算

（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

≪収入≫　　単位：円

科目	金額	備考
前期繰越金	1,201,801	
年会費	770,000	@ 5,000×154名
総会収入	650,000	@ 10,000× 65名
新年会収入	650,000	@ 10,000× 65名
組織強化補助費	134,000	早稲田大学校友会
雑収入	0	
合計	3,405,801	

≪支出≫

科目	金額	備考
総会費	700,000	会場費（目黒雅叙園）他
新年会費	700,000	〃
会報発行費	400,000	会報印刷代 350,000＋予備費 50,000
部会運営費	140,000	囲碁・ウォーキング・カラオケ・グルメ・ゴルフ・俳句・美術歴史・麻雀・旅行・会報編集・よん月会・ボランティア推進・若木会・事務局
会議費	130,000	役員会等の会議室借料、商議員会費
交際費	100,000	23区支部幹事会・WASEDAサポーターズ倶楽部会費等
通信費	100,000	会報発送費等
事務用品費	150,000	業務用封筒印刷、事務消耗品
広告費	50,000	HP運営費・早稲田祭広告費
雑費	50,000	振込費用等（会員名簿印刷費含む）
その他	50,000	若木会活動援助費
次期繰越金	835,801	
合計	3,405,801	

＊1 交際費にWASEDAサポーターズ倶楽部会費30,000円を計上。
申請条件が承認されれば、組織強化費（母校支援・若手交流費）が200,000円の増額になり、予算上の次期繰越金は1,035,801円となる。
＊2 部会運営費は1部会10,000円×14＝140,000円とする。
＊3 商議員会の会費援助金は商議員の割当が1名増加のため、1人20,000円×5名分＝100,000円とする。
＊4 前期の校友会組織強化費の内、母校支援・若手交流費の50,000円は若木会の活動援助費として計上

各部会からの案内・報告

囲碁部会

囲碁部会活動について、以下２件報告します。

1. ６月２日（土）、日本棋院にて、第12回オール早稲田囲碁祭が行われた。参加稲門会は、23区ならびに多摩地区、神奈川、千葉、埼玉の地域稲門会であり、参加総数243名余りの規模であった。
   ５人一組の団体戦を基本とし、目黒区からは、A、Bの２チームが参加し、10時対局開始から17時ごろまで、４回戦形式で順位を争った。
   結果は、Aチーム：4位、Bチーム：2位でした。
   とくに、Bチームが健闘しました。
   目黒からの参加者は以下の方々でした。
   Aチーム：保井三段、蠣崎二段、鵜野初段、増井初段、大久保七段
   Bチーム：松田五段、唐沢五段、佐藤初段、菊地初段、小倉３級
2. 今年後半の活動予定
   ＊例会：８月は休会、９月から従来どおり、毎月第１月曜日に開催
   ＊忘年囲碁大会:12月の第２月曜日（例会を兼ねる）に開催予定
   ＊第12回稲穂囲碁祭（９月）に参加予定
   ＊第50回早慶戦（12月）に参加予定

囲碁部会長　　大久保健治

グルメ部会

本年度第２回のグルメ部会を6月29日（金）の午後５時から、ホテル・グランドアーク半蔵門の屋外ビヤテラスで開催しました。

当日は梅雨の晴れ間でしたが、暑くはなく、爽やかなお日和でした。国立劇場や英国大使館に隣接した閑静な場所で、緑を眺めながらビールやワインを片手に和やかな談笑のひとときを過ごしました。
参加者は20名でした。

グルメ部会長　　海沼美智子

美術・歴史鑑賞部会

＜第36回の実施報告＞

７月２日（月）、少し天候が心配でしたが、雨に降られず六本木の国立新美術館前に朝9時50分に集合。８名全員10時開館とともに入館して、『大エルミタージュ美術館展　世紀の顔・西洋絵画の400年』を約１時間半鑑賞しました。昼食は六本木のミッドタウンの地下の蕎麦屋で早めの食事でした。

＜第37回のご案内＞

19世紀にプロイセン帝国の首都ベルリンに国立美術館、博物館が誕生し、美術品コレクションは、類を見ない規模となりました。

今回鑑賞する「ベルリン国立美術館展　学べるヨーロッパ400年」は15世紀から18世紀の代表的なヨーロッパ美術の展覧会です。出展作品は、ヨハネス・フェルメールの「真珠の首飾りの少女」、ディエゴ・ベラスケスの「3人の音楽家」、アルブレヒト・デューラーの「ヤーコブ・ムッフェルの肖像」、サンドロ・ボッティチェッリの「ダンテ『神曲』写本」など魅力いっぱいです。作品の数は、絵画、彫刻、素描など合わせて107点。話題の美術展を鑑賞しましょう！

『ベルリン国立美術館展
　　学べるヨーロッパ美術の400年』

・日　時：9月5日（水）9時20分集合
　　国立西洋美術館正門前（上野）
・場　所：東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」
　　徒歩8分
・入場料：500円
・申込締め切り：9月2日
・連絡先　後藤克彦

＜第38回の予定＞

「ドビュッシー、音楽と美術」ブリヂストン美術館（主催は日本経済新聞社、10月14日まで開催。招待券入手済）。

美術・歴史鑑賞部会長　　後藤克彦

ウォーキング部会

皆さん歩いていますか。気候も良くなってきました。健康のために一緒に歩きましょう。

＜実施報告＞

６月例会：筑波山ハイキング
　　季節外れの台風のため中止しました。
７月例会：目黒駅から碑文谷を巡る
　　10名参加。　長老樋口氏以下完歩。

＜今後の予定＞

８月は例年通りお休み
９月例会：三浦一族の和田の遺跡を巡る
　　日時　９月18日（火）　午後１時集合
　　場所　京浜急行　三崎口駅改札外
10月例会：筑波山ハイキング
　　日時　10月16日（火）　午前９時40分集合
　　場所　JR秋葉原　つくばエクスプレス改札前
　　Ａコース（ロープウェイ）　Ｂコース（歩き）
11月例会：大船観音から由緒ある寺院へ
　　古都を囲む山並みの北側を歩く
　　日時　11月12日（月）　午後１時集合
　　場所　JR大船駅改札外

参加を予定される方はご連絡ください。
連絡先：牧野

ウォーキング部会長　　牧野武夫

若木会

6月23日（土）、杉並稲門会を中心に各区の若手幹事で企画した、大学キャンパスツアーの報告です。

目黒からは、稲垣さん、猪名川さん、尾崎さん、石川の4名が参加。現役学生の案内のもと、大隈講堂前から本部キャンパスをぐるりとめぐりました。

最新設備を誇る学部棟や、国際会議対応の図書館もあれば、昔から変わらない歴史ある教室や緑の歩道。

お子様と一緒に参加した方も多く、大隈講堂前で親子で記念撮影をする姿が微笑ましかったです。

懇親会も、早稲田祭運営を担う学生を交えて盛り上がりました。

若木会は今後も随時、先輩方との交流・他区との交流を含め、仲よく発展してまいります。

若木会　　石川智子

俳句部会

俳句の基本が写生であることは前号で書きましたが、今回は写生の具体的方法について考えます。

広辞苑によると「写生とは景色や事物をありのままうつしとること」と定義されております。従って句材は身近なところにあるのですが、ただ何でも景色や事物を詠めばよいというわけにはいきません。

俳句は十七文字の短詩ですので、その核となる発見とか感動を美しく正しい日本語で詠まねばなりません。従って身近なところでは行き詰まることがあります。そのような時は吟行と言って外に出て新鮮な景色や事物に接します。そこには必ず新しい発見や感動するものがありますので、それを切り取って十七文字に仕立てます。これが俳句の作り方の基本です。

第42回「萩句会報告」（順不同）
日時　7月20日（金）　14時～17時

安藤虎酔	狭庭にも一人静のありしこと
川井素山	水割りの氷片の鳴る江戸切子
保井寳正	姫沙羅の湯煙り紡ぐ夕日かな
牧野里山	水遊び子供の頃が懐かしく
青木英林	片蔭にタクシーも休む昼下がり
後藤克彦	風通し良き部屋に孫昼寝かな
吉田啓悟	築地塀片蔭つづく武家屋敷
丸山酔宵子	雲晴れて万緑迫る野天の湯
菊地崇之	片陰の店先通つてスーパーへ
佐久間喬	子等泳ぐ海輝きて雲の峰
永井正孝	出水後の泥田にのぞく稲の先
佐々木彩女	廃線の錆びしレールや草いきれ
阿部一掬	遠くから子の墓見ゆる曼珠沙華
佐久間たか子	片蔭を譲り合ひつつ二人連れ
（参考）	
佐藤喜仙	片蔭の途切るる所足の急く

俳句部会長　　佐藤喜孝

ようこそ！部会活動へ

グルメ部会へのお誘い

グルメ部会長　　海沼美智子

美味しいものを好まない人はいません。しかも同窓という親しみのある輪の中で、楽しい雰囲気で語りあいながらの団欒は、ごちそうの味をさらに引き立たせてくれます。

グルメ部会は目黒稲門会の歴史の中で最初にできた部会です。特殊な技能を必要とせず、どなたでも参加できるこの部会は、目黒稲門会が立ち上がって間もなく、コアの会員基盤を作るのに大変役立ちました。

年間２～４回にわたりグルメ会を開催していますが、10年以上継続している現在、会員の家族の方々も参加してくださり、毎年恒例の会もできています。秋の「新そば会」はその代表的な会で、目黒稲門会会員の堀井良造さんのお店「更科堀井」で開催しています。美食家たちにも評判のお店で、毎年９月と10月に２回に分けて行っています。

夏の「ビアパーティー」も毎年恒例となっています。毎月開いている役員会が８月はお休みになるため、当初、８月に、皆と飲んで語ろうということでスタートしました。ホテルやレストランやビヤホールなどの個室で開催されます。諸先輩から、また若い会員から、飲みながら、いろいろなお話を聞くことができ話題が尽きません。

そのほかに、春頃に、お食事会を入れることがありますが、今までは和食が主です。会員の中で美味しいお店をご存知の方がいらっしゃいましたらお教えください。フランス料理でも中華でもイタリアンでも結構です。

この春から、猪名川一雄幹事がグルメ部会副部会長としてサポートをしてくださることになり、アイデアを出してくださっています。

今後とも四季折々の企画で会員の皆さまに楽しんでいただこうと考えております。皆さまのご参加をお待ちしています。

会員の広場

奥の細道むすびの地　大垣

安藤　孝　（昭和46年　商）

江戸深川を旅立ち、延々2,400kmに及ぶ「奥の細道」の旅は岐阜大垣で終了する。

JR横浜駅午後11時30分過ぎ「ムーンライトながら」に乗車した私は翌朝６時に大垣駅に着いた。乗り換えて関ヶ原駅に降りたのは６時30分。今日はここから大垣駅まで歩く。

関ヶ原の戦い古戦場巡り

芭蕉の旅とはちょっと離れるが（彼も奥の細道の旅中、この地を通っているのだが特に記述はない）やはりこの歴史上の地を見過ごすわけには行かないだろう。

てなわけで、東首塚を皮切りに徳川家康の終戦陣地・石田光成の陣地・開戦の地・決戦の地・諸大名の陣地等いくつかの「その跡」を歩き回ること約２時間、コースは道標が整っており迷わずに回ることが出来る。気のせいか西軍武将の陣地跡は保存されていたが、東軍武将のそれらはほとんどが住宅地に化していた。つまりはそれだけ東軍の勢力が強く関ヶ原中央に陣取り、追いやられた西軍は山すそに陣を張るしかなかったってこと？しかしこの地の地形をみて感じた事は、光成の笹尾山からは全ての陣形が見渡され、松尾山の小早川秀秋の寝返りがなければ日本の歴史は変わっていたかもしれない…。

家康初戦の桃配山陣地を過ぎると道は垂井宿へと向かう。

うどんつゆ天下分け目の地

途中、山内一豊の陣跡を過ぎた辺りに「日本の食文化分岐点認定地」なる看板が。つまり徳川方の関東風味（こい口）と豊臣方の関西風味（うす口）との分岐点がここだそうだ。

垂井の宿

垂井一里塚を過ぎると宿に入る。地名の起こりとされる「垂井の泉」の鮮烈さを表現したのが芭蕉の

“葱白く　洗ひあげたる　寒さかな”

本龍寺には「作り木塚」があり芭蕉の句碑が立つ。

“つくり木の　庭をいさめる　しぐれかな”

宿東端の相川には、川幅いっぱいに幾重にも鯉のぼりがメザシのように垂れていた。相川橋を渡るとすぐに中山道と美濃路との追分、今回は美濃路を大垣まで歩くことにする。

トイレ考

今回は平日歩きという事もあって、道沿いの病院のトイレを２箇所で拝借した。いずれも総合病院で受付・待合室が広くて職員に怪しまれる事なく用を済ます事が出来た。もっともリュック姿を怪しまれていたのかも知れないが。なお通常は休日歩きなのでこの手は使えないので苦労するのだ。基本的に宿場には公共のトイレがあり、道すがらの公園あるいは神社仏閣にもトイレがあるのでそう心配はないのだが、年をとると早め早めの対応が望ましいのだ。コンビニは道中なかなか見当たらないので国道歩きの場合以外はやっかいだ。

むすびの地　船町港跡

大垣まで６kmの道路標識が、いよいよゴールが近い事を知らせる。やがて町名が「船町」となった。正覚寺の芭蕉塚を見る。この塚は没後100日に大垣俳人の木因・季吟・路通達により立てられた芭蕉追悼の碑だ。

到着！！　水門川にかかる高橋、当時はここには港（船町港）があり、奥の細道を終えた芭蕉はその後この港から舟で伊勢神宮へと向かったのだった。

“蛤の　ふたみにわかれ　行く秋ぞ”

川岸には「住吉灯台」が復元され、水面に和舟がもやっている風景は往時を偲ばせる。両岸の桜の木々は満開！満開！！満開！！！

付近を散策し日本の春と芭蕉の旅に満足した私は最後に大垣城を訪ねた。因みに、この城は関ヶ原の戦いのおりに西軍石田光成の本拠地だった。

城下町を歩いていると、あった！居酒屋発見。その名も「芭蕉」。渇いた喉を潤おす生ビール、もう一杯、それから冷酒とほぼお決まりのコースで、つまみは刺身に焼き鳥・冷奴におしんこだ。むすびの地にちなんで、おむすび（メニューでは、おにぎり）を注文して、夕闇迫る午後４時過ぎに今回の旅を終了した。

注：ムーンライトながら
東京―大垣間の臨時夜行快速列車。春・夏・冬のホリデーシーズンに運転。青春18きっぷでの利用可能。
注：関ヶ原古戦場陣地跡
かなり広い範囲に点在しており全てを巡るには一日がかりとなる。
注：美濃路
中山道・垂井から大垣を抜けて尾張に入り東海道・熱田の宮へ通じる街道。

模擬裁判

村山　弘（昭和44年　法）

目黒稲門会に参加させていただくようになって１年が経ちました。設立以来の幽霊会員だったのですが、退職して昨年９月から、よん月会とウォーキング部会に参加しています。どうぞよろしくお願いいたします。何を書くか迷いましたが、裁判員制度が行われていることもあり、学生時代の模擬裁判のことを記したいと思います。

私は昭和39年に法学部に入学して、民法研究会（民研）に入会しました。１年の時は何事もなかったのですが、２年になる時に、私は法学会幹事に指名されました。法学会とは、法学部の教授、学生、OBの集まりで、学部公認クラブが代表を出し合って、法学会大会（新入生歓迎会）・模擬裁判・法律討論会の開催を担当していました。当時はそんなことも知らず、４月に気軽に会合に参加したのですが、今年の模擬裁判は民事事件を扱うことになっているので、民研さんが準備委員長を引き受けて欲しいと、いわば強引に押し付けられました。法学部の２年生とはいうものの、１年のときの授業は法学概論と民法親族法（よん月会で外岡茂十郎先生の最終講義年と伺いました。）のみで、裁判制度は何も知らないのと同じでした。民法研究会では、２年生が歴代幹事をしていて、準備委員長をやったことはありませんでした。民研としてのバックアップも取り付け、大急ぎで各クラブから準備委員をだしてもらいました。11月下旬から12月上旬の開催を目途にスケジュールを立てたのですが、メンバーは２年生が大部分なので、なかなか事件テーマが決まりません。メンバーが１年生の時かじったのは親族法だけであったことと、私自身が１年の時、会誌「民研」で離婚請求権の濫用を取り上げていたことから、テーマを「有責配偶者の離婚請求事件」としたときには、すでに6月になっていました。判決は重要な要素であることから、民研の会長である高島平蔵教授に大学院生3人を紹介頂き、判事役と判決文作成をお願いして、やっと具体的準備作業に移ることができました。

事件は判りやすくするためにも単純化して、夫である原告は、愛人と結婚したいがために一方的に離婚を求めるという典型的なストーリーとしました。このストーリーは当時の裁判例としても頻出しており、いずれも夫の主張は認められていませんでした。妻の生活を守るべきか、破綻した家庭生活が法律をもって回復できるのか、破綻と認定するならば被告をどのように救済するのか、ということが争点でありました。これらの事例に関する判例は、自らの行動が原因で離婚を求めることは許されないというもので、しかも破綻した家庭生活に関する救済手段も充分ではありませんでした。若い研究者にとっては不満とするところで、メンバーにとっても既成概念を突き破る論理を見出せないかという願いがあり、このことが大学院生に判決文作成を依頼した最大の理由でした。台本作成には判事役の大学院生にも参加してもらい、台本第１稿が９月末にできあがりました。

並行して、最大の懸案事項である出演者の募集を９月中旬から行いました。判事だけは決まっていますが、弁護士４、廷吏１、証人10を目標にポスターやチラシをつくり、語学クラスを中心に募集をかけました。幸いにして１ヶ月足らずで人も集まり、彼らも準備委員として活動してもらいました。出演者も含めた準備委員会の活動も、専用の活動拠点があるわけではないので、中心メンバーの事前準備活動は出身クラブの部室を利用してもらいながら、全体活動はどうしても夕方からの空き教室を使わざるを得ませんでした。今から思うと、何をやっていたのかと思うくらい、１日かかりきりだったように思います。そうこうする内に開催日が12月４日と決まりました。講評を頂く３先生も決まり、判事役から事前に説明をしていただきましたが、一番の気がかりは、なかなか台本が確定しないことでした。少しでも批判に耐えられるように、皆が一生懸命知恵を出し合った結果ですが、確定は開催日１週間前になりました。２週間前から出演者への演技指導に入りましたが、台詞から離れて、体操や発声練習から空を食う（水を飲む、団子を食べる…）ことまでやらされて、夕方から９時頃まで続き、出演者は苦しんだようです。演技指導では、台詞を覚えさせる練習はなかったようでしたが、本番ではしゃべることができていました。また、年令相応の衣装やドーラン塗りもあり、それなりの見せる工夫もしました。

注目の判決は判事役の大学院生のみで作成され、当日の朝、準備委員長の私と講評の先生にのみ知らされて、他の準備委員・出演者は知らないままでした。結論は、婚姻の破綻を看過できず、請求を認めるという、当時としては考えられない判決となりました。裁判所で同じ判例が出るのは10年後のこととなります。

この無我夢中で走った模擬裁判の経験は、私の性格を大きく変えてくれました。そして社会人生活を営業マンでスタートする契機となった忘れられない出来事です。この4日後から学園紛争が始まりました。これも忘れられない記憶です。

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。平成24年9月現在

部会名	部会長	連絡先 電話／Fax	参加人数	会費	活動概要
囲碁	大久保健治		10数名	300円	毎月1回（下目黒住区センター）
カラオケ	田畑　繁		10数名	3,000円 女性2,000円	毎月　第2金曜　午後4～7時 （コート・ダジュール目黒駅西口店）
グルメ	海沼美智子		20～30名	5,000円～	年数回 雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大杉　邦雄		20～30名	20,000円程度	年2回春秋　目黒通りバスで送迎
ウォーキング	牧野　武夫		15～20名	なし （各自負担）	シーズン中は毎月1回程度
麻雀	鵜野　洋治		10数名	3,000円	年6回　武蔵小山“サン”および 渋谷“スリーハンドレッド”
美術・歴史鑑賞	後藤　克彦		15～20名	その都度	年4～5回
旅行	井村　正陽		20～30名	その都度	年2回　春秋
若木会	中西　元樹		10名程度	その都度	年数回の食事会等の他、幅広い層の参加による「心の若木会」も数回開催
よん月会	土川　俊雄 （井村代理）		20～30名	4,000円	毎月　第4月曜　午後6～8時 （「やるき茶屋」都立大学店）
俳句	佐藤　喜孝		約15名	3,000円／年	毎月　第3金曜　午後2～5時 下目黒住区センター
ボランティア活動推進	稲垣　博信		全員	その都度	各種ボランティア活動および 各種支援募金の実施
広報編集委員会	地田　博昌	eメール　meguro-tomonkai@nifty.ne.jp URL　http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/			

新入会員

金井豊男氏（昭和41年　理工）
（五本木在住）
趣味：パソコン、ドライブ、
　　絵画鑑賞

平成21年の8月に中学校のクラス会があり、当時の吉田事務局長にお会いし、稲門会への入会勧誘を頂きました。本年2月に現職を卒業し、時間的余裕が出来るのでその一部を稲門会活動にあてたいと思っています。よろしくお願い致します。

ＨＰ便り

目黒稲門会ホームページ（HP）を是非ご覧願います。『目黒稲門会』で検索すれば一発で出てきます。また、HPのブログの項から『目黒稲門会アーカイブス』をクリックすると過去の全ての会報や新年会等会合の様子が動画形式でご覧いただけます。パスワード等ご不明な点は事務局までお気軽に問合せ願います。　（小杉　記）

編集後記

皆さんオリンピックを堪能されたことと思います。マスコミの煽り立てにのるのが嫌で、待ち遠しいという感じではなかったのですが、なんだかんだ言いながら、結構テレビに向き合っている時間が多かったオリンピックの2週間でした。

余りメダルの数に拘るのもどうかと思いますが、テレビを見ているとつい応援に力が入ります。

でも、オリンピックの感動はメダルの色ではないでしょう。ちなみにオリンピックで心に残る感動シーンと言えば、教科書にも載った1936年ベルリン・棒高跳びの西田（早大OB）大江（慶大OB）の「友情の銀銅メダル」、同じベルリン・「前畑がんばれ！」、1964年東京・女子バレー「東洋の魔女」、同じ東京・マラソン円谷幸吉の銅、などをあげる人は多いと思います。（友情のメダルは早大大学史資料館にあり）

日本の選手の皆さん、いい試合を見せてくれて有難う。メダルの色も勝も負けも関係なし。日本中のみんなが応援していました。お疲れ様。

スポーツに関心の高い方の多い目黒稲門会の皆さんの観戦記などお待ちしています。　（地田　記）